

2013年9月 会報 厚木ワイズメンズクラブ 第109号

主 題	万年クラブ会長 池田湘南・沖縄部部長 渡辺東日本区理事 アジア地域会長 国際会長	ささやかな祈りがあるとすれば、自分以外の周囲に心を寄せる みんなで楽しく奉仕 いざ立て 未来を始めよう、今すぐに 全ての世界へ出て行こう
-----	--	--

9月強調月間（ユース、EMC-EM）

求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。
門をたたきなさい。そうすれば開かれる。

マタイによる福音書 7章7～8節 選者 田中信忠

7月例会報告

役員就任式



厳肅な雰囲気の中、佐藤前部長の式文朗読「クラブ役員に選ばれることは大なる名誉です。あなたがたが選ばれたのは、厚木クラブの会員の信頼を得ている結果で、全ての会員はあなたがたの能力を信頼し、大いに期待しております・・・。」

万年会長はじめ三役の誓詞「私たちは、厚木クラブの役員として、その任務を誠心誠意務めます。」こうして厚木クラブの新年度は明るい希望に萌えて船出しました。

転入会式 北村文雄さん、吉永担当主事

田中博之次期理事、鈴木茂部会員増強事業主査に立会人をお願いし、万年会長の司式で行われました。北村さんは湯河原クラブからのご転会、万年会長は早速会長顧問としてのご協力を要請、快諾いただきました。吉永さんはとつかクラブの担当主事を務められた大ベテランと一緒に汗を流しましょう。



懇談

次期区大会のホストクラブということで、万年会長が新年度最初の例会に田中次期理事の来訪を要請され、懇談形式で田中さんの思いを伺いました。

まず指摘されたのは、東日本区定款第18条の東日本区大会の条項「大会の目的は、参加する各クラブ及び会員が情報を交換し、互いに啓発し、共に運動を担う者としての連帯と協力を一層深めることにある。」従来大会で少し欠けているのではと思われるのが啓発ではなからうか。ではどうしたら啓発を行うことができるかが一つの課題ではなからうか。また区大会テーマを決めるのも大事な仕事です。

お持ちした資料ではここ10年の大会参加者数は平均して約500人です。登録費をどのくらいにするかも、きわめて重要な課題です。懇親会のお料理をどの程度に収められるか、どんな料理にするか、みなさんと試食し、検討することになると思います。宇都宮での大会の時、ご当地グルメの餃子を空き時間にホテルの庭園で振舞ってもらったのが印象に残っておりますが、厚木ではどうでしょうか。県か市でコンベンション支援金が出してもらえないでしょうか。いずれにしても質の高い区大会をしたいものです。

(文責 田口)

例会データ	8月	在籍会員 18人
会 員	15人	メイキャッツプ済み
ビジター	5人	出席率
ゲ ス ト	人	
合 計	20人	83%

例会のご案内	会 長	万年 孝助
原則として第4水曜日18時	副会長	石井 芳隆
半から2時間	副会長	谷口 四郎
お問い合わせ先	副会長	田中 勝子
TEL 046-223-1441 吉永貴弘	書 記	千葉 裕子
	会 計	岩淵 正弘

ふれあいサマーコンサート in あつぎ

厚木 YMCA の呼びかけで始まり恒例となっている。厚木市内の福祉団体が協力して「福祉の広場」実行委員会を結成して行うサマーコンサートが8月9日厚木市文化会館で行われ千人あまりの障害者、子供さんたちが来場。会場整理や出演者の子供さんを預かる保育室の担当がたりないということで、厚木クラブからも万年会長はじめ数名のものがボランティアとして参加しました。

ペシャワール会

12年度 現地事業報告冒頭の中村哲医師の所感



8年8月アフガニスタンで農業指導者の伊藤和也さんが拉致され殺害されました。その所属するペシャワール会の代表が中村哲医師。

中村医師は1984年パキスタンの辺境の地に医療支援の医師として赴かれ、2003年からはアフガニスタンの大干ばつで砂漠化した大地での灌漑用水路建設に着手し、現在までに用水路は25.5キロに達し、3500haの農地が、回復、15万人の難民が戻ってきている。総工事費16億円はすべて募金、その中村医師の言葉。

かつての青年医師は、初老(66歳)の工事現場監督となり、この間のめまぐるしい変転を思うと波乱万丈とはこんな事をいうのかと不思議な気がしています。めまぐるしい動きにも拘わらず、一貫する縦糸は天・地・人の構図の中で、「自然と人間の関係」を問い続けることだったような気がしています。

医療現場、河川工事、農業に至るまで、このことは変わりません。

大きな転機が何度かありましたが、最後のものは2010年8月の大洪水でした。ごみクズのように流れるはかない人間の営みを見ながら、思うところがありました。それまで、人の都合で自然を眺める未練がましさを拭えませんでした。自然の摂理から人を眺めるようになってきました。

人は大自然の中で、身を寄せ合って生きています。そして人もまた自然の一部です。このことを忘れると、私たちの考えは宙に浮いてしまいます。科学技

術で自然を制御できると錯覚し、不老不死の夢が叶うかのように考える。目先の満足のためなら、暴力も厭わず、生死さえ軽く考える。生かされている恩恵を忘れ、暗い妬みや不安に支配される現地で見ていると、大は戦争から小はいじめや自殺にいたるまで、この錯覚が影を落としているように思えます。

アフガニスタンの現地から見ると、時代は明らかに一つの破局に向かっています。人がこの巨大な錯覚の体系にとどまる限り、希望はありません。

干ばつ対策に奔走した立場から見ると、日本ほど豊かな国土に恵まれた国はありません。敗戦直後、飢餓から立ち直らせ、戦いで傷ついた人々をなぐさめたのは、郷土の山河と自然でした。その恵みによって生かされてきたことは、学校で教えられません。おそらく、郷土を築いてきた祖先たちはこのことを知っていました。

株価や経済成長率は、恵みを語りません。武力は、郷土や国民を守りません。30年間の日本の変化を回顧すると、哀しいものがあります。

「身を寄せ合う」とは、人が和し、弱者を労わることです。和して同ぜず、ここに積極的な価値と希望があります。平凡ですが、これが30年の結論です。

現地活動はなおも続きます。「緑の大地計画」を以て日本の良心の気力を示したいと思います。30年の支えに感謝します。

9月活動予定

9月3日 Y.Ys協議会 関内Y, 19時～

どなたでも参加自由。横浜 YMCA の行事予定などいろいろ貴重な情報交換があつて有意義です。都合のつく方ご参加をおすすめします。

9月14日 厚木クラブ第2例会 18時半～

厚木 Y の専門学校生と日本語学科生を招いてのボーリング大会のこと、クリスマス祝会のことなど話し合われる予定です。

9月24日 うたごえ 厚木Y別館7階 13時半～

高齢者向けの企画、お知り合いの方に参加おすすめください。会費500円

9月25日 厚木クラブ第一例会

今回は小林美智枝さんご指導で歌う会です。